実務経験のある教員等による授業科目一覧**【介護福祉学科】**

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
人間の理解	2	鄭　瑞河		
人間関係とコミュニケーションⅠ	2	百留　哲		
人間関係とコミュニケーションⅡ	2	鄭　瑞河		
社会と制度の理解Ⅰ	2	伊東　良輔		
社会と制度の理解Ⅱ	2	伊東　良輔		
地域福祉論	2	鄭　瑞河		
介護の基本Ⅰ	4	百留　哲		
介護の基本Ⅱ	4	百留　哲		
介護の基本Ⅲ	4	鄭　瑞河		
コミュニケーション技術A	1	百留　哲		
コミュニケーション技術B	1	百留　哲		
生活支援技術Ⅰ	2	香坂　美穂		
生活支援技術Ⅱ	2	香坂　美穂		
生活支援技術Ⅲ	4	石橋真由美		
生活支援技術（家事の介護）	1	柴田　仁子		
生活支援技術（生活支援と文化）	2	柴田　仁子	北田　清美	
介護過程Ⅰ	4	住野　まり子		
介護過程Ⅱ	2	鄭　瑞河		
介護過程Ⅲ	4	石橋真由美		
介護総合演習Ⅰ	4	鄭　瑞河		
介護総合演習Ⅱ	4	石橋真由美		
介護実習	15	石橋真由美	鄭　瑞河	
障害の理解	4	杉山　恵子		
こころとからだのしくみⅠ	4	香坂　美穂		
こころとからだのしくみⅡ	4	宮本　明美		
発達と老化の理解	4	宮本　明美		
認知症の理解Ⅰ	2	江藤　尚隆		
認知症の理解Ⅱ	2	江藤　尚隆	宮本　明美	
医療的ケアⅠ	2	杉山　恵子		
医療的ケアⅡ（演習）	2	宮本　明美	杉山　恵子	
合　　計	**94**			

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	人間の理解	担当者名	鄭　瑞河

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通して人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。
到達目標	１）人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護に関する理解ができる。 ２）人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できるようにする。
成績評価	定期試験（中間+期末）80%、課題10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座１「人間の理解」（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	最新・介護福祉士養成講座２「社会の理解」（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション（人間の理解、人間の尊厳、自立とは）
2	自立のあり方① 概念の多様性
3	自立のあり方② 自立とは
4	自立のあり方③ 介護を必要とする人の自立と自立支援
5	自立のあり方④ 尊厳の保持と自立、自立支援の関係性
6	人間の尊厳と利用者主体
7	人権思想の潮流とその具現化
8	人権や尊厳に関する日本の諸規定
9	社会福祉領域での人権福祉理念の変遷①
10	社会福祉領域での人権福祉理念の変遷②
11	個人の権利を守る制度―虐待防止
12	個人の権利を守る制度―サービス利用に関する制度
13	個人の権利を守る制度―消費者保護に関する制度
14	個人の権利を守る制度―その他の個人の権利を守る制度
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ					担当者名	百留　哲					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						

授業概要	この領域では、人間の多面的な理解を基礎に介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの基礎、チームで働く能力の基礎を養うことが目的である。本教科では、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。また、人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できることを目指す。
到達目標	（１）自己理解、他者理解を基に対人関係とコミュニケーションについて理解する。 （２）コミュニケーションに技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。
成績評価	中間試験20%、期末試験80%
その他	百留哲　有（特別養護老人ホームにおいて介護福祉士・介護支援専門員として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	介護福祉士養成講座１[人間の理解]　第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・人間関係とコミュニケーションとは、人類の進化に伴う人間関係
2	人間と人間関係　―　自分と他者の理解①
3	人間と人間関係　―　自分と他者の理解②
4	社会心理学からみた人間関係
5	人間関係とストレス
6	対人関係におけるコミュニケーション　―　基本構造
7	対人関係におけるコミュニケーション　―　手段①
8	対人関係におけるコミュニケーション　―　手段②
9	任がん関係の発展・後退とコミュニケーション
10	対人援助における基本的態度①
11	対人援助における基本的態度②
12	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則
13	組織とは
14	組織におけるコミュニケーション　―　条件と特徴、情報の流れ
15	組織におけるコミュニケーション　―　求められるコミュニケーション

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	本教科では、介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。さらに、介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営基本の理解を目指す。
到達目標	・人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションの基礎的な知識を身に着ける。また、介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を身に着ける。 ・介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。
成績評価	定期試験（中間+期末）80%、課題10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護p福祉士養成講座１「人間の理解」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、「人間関係とコミュニケーションⅠ」の振り返り
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義①
3	介護実践におけるチームマネジメントの意義②
4	ケアを展開するためのチームマネジメント①
5	ケアを展開するためのチームマネジメント②
6	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①
7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④
10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント⑤
11	組織の目標達成のためのチームマネジメント①
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント②
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント③
14	組織の目標達成のためのチームマネジメント④
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	社会と制度の理解Ⅰ					担当者名	伊東　良輔				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	地域社会における生活とその支援について基礎的な知識、および社会保障制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的としている。社会と制度の理解Ⅰでは、日本の社会保障に焦点を当て、制度の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。また、介護実践に必要な観点から、介護実践に関する諸制度の紹介と基礎的な知識の学習とする。
到達目標	１．利用者の生活と社会保障の関係性（特に必要性）について理解できる。 ２．社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解できる。 ３．社会保障の現状と課題をとらえる。
成績評価	定期試験（中間+期末）80%、課題10%、授業態度10%
その他	有り：障害者支援施設にて社会福祉士として相談業務に従事

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座2「社会の理解」（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、「地域福祉論」振り返り
2	社会保障制度―基本的な考え方
3	社会保障制度―ライフサイクルからみた社会保障
4	社会保障制度―日本の社会保障制度の発達
5	社会保障制度―日本の社会保障制度のしくみ
6	社会保障制度―年金保険①
7	社会保障制度―年金保険②
8	社会保障制度―年金保険③
9	社会保障制度―医療保険①
10	社会保障制度―医療保険②
11	社会保障制度―雇用保険と労働者災害補償保険
12	社会保障制度―社会扶助、生活保護制度①
13	社会保障制度―生活保護制度②
14	社会保障制度―現代社会と社会保障制度①
15	社会保障制度―現代社会と社会保障制度②　　まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	社会と制度の理解Ⅱ					担当者名	伊東　良輔					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			

授業概要	地域社会における生活とその支援について基礎的な知識、および社会保障制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的としている。社会と制度の理解Ⅱでは、高齢者保健福祉と障害者保健福祉に焦点を当て、主となる制度である介護保険制度と障害者総合支援制度の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。
到達目標	１.介護保険制度創設の背景と目的及び制度のしくみを理解し、高齢者福祉の現状と課題をとらえる。 ２. 障害者総合支援制度の背景と目的及び制度のしくみを理解し、障害者福祉の現状と課題をとらえる。
成績評価	定期試験（中間+期末）80%、課題10%、授業態度10%
その他	有り：障害者支援施設にて社会福祉士として相談業務に従事

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座2「社会の理解」（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、「社会と制度の理解Ⅰ」振り返り
2	高齢社会対策基本法と介護保険制度の概要①
3	介護保険制度の概要②
4	介護保険制度①
5	介護保険制度②
6	介護保険制度③
7	介護保険制度④　まとめ
8	障害者保健福祉と障害者総合支援制度
9	障害者総合支援制度①
10	障害者総合支援制度②
11	障害者総合支援制度③
12	障害者総合支援制度④
13	障害者総合支援制度⑤
14	介護実践に関する諸制度
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	地域福祉論					担当者名	鄭　瑞河				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	介護分野において中心的な制度である介護保険制度と障害者自立支援制度について、制度が施行された背景や根拠となる法律、仕組みについて学び、地域社会における高齢者や障害者の生活について理解する。そして、地域社会の変化や問題について近年の動向を読み介護実践につなげる力を身につけることを目指す。
到達目標	１．地域と地域社会を理解し、地域社会における高齢者及び障害者の生活について考えることができる。 ２．現代社会の変化と伴う地域での暮らしの変化を理解できる。 ３．地域福祉を展開する上で、中心的な用語を理解・活用することができる。
成績評価	定期試験（中間+期末）80%、課題10%、授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座２「社会の理解」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、地域とは
2	社会と生活のしくみ—生活の基本機能
3	社会と生活のしくみ—ライフスタイルの変化
4	社会と生活のしくみ—家族の機能と役割
5	社会と生活のしくみ—社会・組織の機能と役割
6	社会と生活のしくみ—地域、地域社会
7	社会と生活のしくみ—地域生活における生活支援
8	地域福祉の発展
9	災害と地域社会
10	地域共生社会①社会的背景
11	地域共生社会の理念
12	地域共生社会の実現
13	地域包括ケア①理念
14	地域包括ケア②システム
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	保健体育理論Ⅰ					担当者名	得本　啓次				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。
到達目標	本講義は生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す
成績評価	本講義は生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す
その他	保健体育教師

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	改訂版　生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス・トレーニング
2	デジリハ
3	解剖学、関節運動
4	ロジックブレイン
5	ロジックブレイン
6	合同授業
7	合同授業
8	合同授業
9	合同授業
10	ロジックブレイン
11	解剖学、区分
12	合同授業
13	合同授業
14	合同授業
15	合同授業

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	保健体育理論Ⅱ	担当者名	得本　啓次

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。
到達目標	生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得を目指す
成績評価	レポート30%，試験70%
その他	保健体育教員

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	改訂版　生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本 車いす・ティーボール　教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人国際学園

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス
2	マインドコア
3	イメトレ概論1
4	美容、カウンセリング
5	筋膜化学1
6	筋膜化学2
7	ティボール
8	ティボール
9	車いす概論
10	車いす概論
11	イメトレ概論2
12	栄養学
13	児童期
14	高齢期
15	総括

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅰ①					担当者名	百留　哲					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。「尊厳の保持」「自立支援」という介護福祉の基本となる理念を理解するとともに「介護を必要とする人」がその人らしく生活できるように介護実践の基盤となる知識を理論的に学ぶ。
到達目標	介護ニーズおよび介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を習得する。また、地域や施設・在宅の場、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における介護福祉士の役割と機能、さらに社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定等について習得する。
成績評価	中間試験20%、期末試験80%
その他	百留哲　有（特別養護老人ホームにおいて介護福祉士・介護支援専門員として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座　3　「介護の基本Ⅰ」　第3版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・介護の基本とは
2	介護を取り巻く状況①
3	介護を取り巻く状況②
4	介護福祉士の歴史①老人福祉法成立まで
5	介護福祉士の歴史②1970～80年代
6	介護福祉士の歴史③1990年代
7	介護福祉士の歴史④2000年代以降
8	介護福祉士の歴史まとめ
9	介護福祉士の基本理念（尊厳・自立）
10	社会福祉士及び介護福祉士法①
11	社会福祉士及び介護福祉士法②
12	介護福祉士の活動の場と役割
13	介護福祉士に求められる役割とその養成
14	介護福祉士を支える団体
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅰ②	担当者名	百留　哲

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性をしえんするためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。「尊厳の保持」「自立支援」という介護福祉の基本となる理念を理解するとともに「介護を必要とする人」がその人らしく生活できるように介護実践の基盤となる知識を理論的に学ぶ。
到達目標	介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。 ICFの視点にもとづくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法について習得する。
成績評価	中間試験20%、期末試験80%
その他	百留哲　有（特別養護老人ホームにおいて介護福祉士・介護支援専門員として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新：介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」第3版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・振り返り・倫理とは
2	介護実践における倫理
3	倫理的対応が必要な事例
4	日本介護福祉士会の倫理綱領
5	自立に向けた介護
6	ICFの考え方①
7	ICFの考え方②
8	自立支援とリハビリテーション①
9	自立支援とリハビリテーション②
10	自立支援とリハビリテーション③
11	自立支援と介護予防①　介護予防の概要
12	自立支援と介護予防②　種類と展開
13	自立支援と介護予防③　実際
14	自立支援と介護予防④　介護福祉士の役割
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅱ①	担当者名	百留　哲

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。「尊厳の保持」「自立支援」という介護福祉の基本となる理念を理解するとともに「介護を必要とする人」がその人らしく生活できるように介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。
到達目標	介護を受けて生活する人およびその生活について理解する。 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について事例を用いて理解を深める。多職種が連携する必要性や多職種の役割を学び、多職種協働の実際について理解する。
成績評価	中間試験20%、期末試験80%
その他	百留哲　有（特別養護老人ホームにおいて介護福祉士・介護支援専門員として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士焼成講座３「介護の基本Ⅱ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・振り返り・倫理とは
2	介護実践における倫理
3	倫理的対応が必要な事例
4	日本介護福祉士会の倫理綱領
5	自立に向けた介護
6	ICFの考え方①
7	ICFの考え方②
8	自立支援とリハビリテーション①　リハビリとは
9	自立支援とリハビリテーション②　リハビリテーションの実践
10	自立支援とリハビリテーション③　介護福祉士の役割
11	自立支援と介護予防①　介護予防の概要
12	自立支援と介護予防②　種類と展開
13	自立支援と介護予防③　実際
14	自立支援と介護予防④　介護福祉の役割
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅱ②					担当者名	百留　哲					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。介護の基本Ⅱ②では、介護における安産の確保とリスクマネジメントについて、その必要性を理解する。また、介護従事者の安全において、自身のこころと身体の健康管理と、労働環境の両面から学ぶ。
到達目標	リスクマネジメントとは何か、そしてリスクを回避する方法について理解する。また、多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する、ほかの職種の専門性や役割と機能を理解する。 介護従事者のこころと身体の健康管理と、労働環境の両面について理解する。
成績評価	中間試験20%、期末試験80%
その他	百留哲　有（特別養護老人ホームにおいて介護福祉士・介護支援専門員として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・介護の基本Ⅱ①振り返り
2	介護における安全の確保①
3	介護における安全の確保②
4	リスクマネジメントとは何か①
5	リスクマネジメントとは何か②
6	感染症対策
7	健康管理の意義と目的①
8	健康管理の意義と目的②
9	こころの健康管理①
10	こころの健康管理②
11	身体の健康管理①
12	身体の健康管理②
13	労働環境の整備①
14	労働環境の整備②
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅲ	担当者名	鄭　瑞河

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

授業概要	介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職として能力と態度を養う学習とする。介護実践の基礎となる知識を「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」では理論的に学び、「介護の基本Ⅲ」においてはそれを振り返り、より理解を深めることを目標とする。 また、国家試験に向けて、総合的な基礎知識・問題に対する読解力を習得する。
到達目標	１．「介護の基本Ⅰ」の学習を振り返る。 ２．「介護の基本Ⅱ」の学習を振り返る。 ３．学びをもとに国家試験に対応することができる。
成績評価	定期試験（中間+期末）70%、授業態度30%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	最新・介護福祉士養成講座４「介護の基本Ⅱ」（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	「介護の基本Ⅰ」振り返り
2	「介護の基本Ⅰ」振り返り
3	確認問題
4	確認問題
5	解説
6	解説
7	「介護の基本Ⅰ」振り返り
8	「介護の基本Ⅰ」振り返り
9	「介護の基本Ⅰ」振り返り
10	「介護の基本Ⅰ」振り返り
11	「介護の基本Ⅰ」振り返り
12	「介護の基本Ⅰ」振り返り
13	確認問題
14	確認問題
15	解説
16	解説

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護の基本Ⅲ	担当者名	鄭　瑞河

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	4				授業時間数				60		

回数	授　業　計　画
17	介護の基本Ⅰのまとめ
18	「介護の基本Ⅱ」振り返り
19	「介護の基本Ⅱ」振り返り
20	「介護の基本Ⅱ」振り返り
21	「介護の基本Ⅱ」振り返り
22	確認問題
23	確認問題
24	「介護の基本Ⅱ」振り返り
25	「介護の基本Ⅱ」振り返り
26	国試前準備
27	国試前準備
28	国試前準備
29	国家試験解説
30	国家試験解説

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	コミュニケーション技術A	担当者名	百留　哲

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	利用者とのコミュニケーション技術。家族とのコミュニケーション方法。介護におけるチームのコミュニケーションの重要性と技術など、介護実践における基本的なコミュニケーションの考え方を学ぶ。
到達目標	コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語・非言語コミュニケーションなど、介護を実践する際の基本となるコミュニケーションの考え方や技術を習得する。利用者の家族とどのようにかかわるべきかを理解する。介護チームでのチーム力を高めるコミュニケーションの方法を理解する。
成績評価	中間試験20%、期末試験80%
その他	百留哲　有（特別養護老人ホームにおいて介護福祉士・介護支援専門員として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション・介護におけるコミュニケーション
2	援助関係とコミュニケーション
3	コミュニケーション態度に関する基本技術
4	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
5	目的別のコミュニケーション技術
6	集団におけるコミュニケーション技術
7	コミュニケーションの基本　まとめ
8	家族とのコミュニケーション
9	介護におけるチームのコミュニケーション
10	報告・連絡・相談の技術
11	記録の技術
12	会議・議事進行・説明の技術
13	事例検討に関する技術
14	情報の活用と管理のための技術
15	確認問題・解説　まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	コミュニケーション技術B	担当者名	百留　哲

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	コミュニケーションの基本的な知識を基本に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の定義、活用、管理などに関する基本的知識・技術を習得する。
到達目標	視覚障害や聴覚障害、認知症などさまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を理解する。
成績評価	中間試験20%、期末試験80%
その他	百留哲　有（特別養護老人ホームにおいて介護福祉士・介護支援専門員として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	コミュニケーション障害への対応
2	視覚障害のある人への支援
3	聴覚障害のある人への支援
4	構音障害のある人への支援
5	失語症の人への支援
6	認知症の人への支援①～認知症の特徴と生活への支援
7	認知症の人への支援②～認知症の人に対するコミュニケーション
8	中間試験・解説・まとめ
9	うつ病・抑うつ状態の人への支援
10	統合失調症の人への支援
11	知的障害のある人への支援
12	発達障害のある人への支援
13	高次脳機能障害のある人への支援
14	重症心身障害のある人への支援
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術Ⅰ					担当者名		香坂　美穂、石橋　真由美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

授業概要	ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。 尊厳の保持や自立支援・生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
到達目標	・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠について、説明できる能力を習得する。 ・介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義や目的を理解し、対象者に応じた福祉用具を選択・活用する意識・技術を習得する。
成績評価	授業態度　20%（参加意欲・発言・課題提出） 定期試験　80%（中間・期末試験）
その他	（有）香坂　美穂　介護老人保健施設にて介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6・7　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	授業についてオリエンテーション 生活支援の理解　生活支援の基本的な考え方①
2	生活支援の基本的な考え方②
3	居住環境の整備 住まいの役割と機能・生活空間
4	快適な室内環境・安全に暮らすための生活環境
5	居住環境の整備における多職種との連携
6	自立に向けた移動の介護 自立した移動とは
7	自立に向けた移動・移乗の介護(移動・移乗の基本的理解　ボディメカニクス)
8	自立に向けた移動・移乗の介護(起居動作・安楽な姿勢・体位を保持する介助　(スライディングシート)
9	自立に向けた移動・移乗の介護(歩行の介助・車いすの移乗と移動の介助・移動・移乗のための道具と用具)
10	自立に向けた移動・移乗の介護(歩行介助)
11	自立に向けた移動・移乗の介護(杖歩行介助(屋外・屋内))
12	自立に向けた移動・移乗の介護(車いす介助(屋内))
13	自立に向けた移動・移乗の介護(車いす介助(屋外))
14	移動の介護における多職種との連携
15	授業振り返り　中間試験・解説
16	自立に向けた身じたくの介護①　自立した身じたくとは

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術Ⅰ	担当者名	香坂　美穂、石橋　真由美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

回数	授　業　計　画
17	自立に向けた身じたくの介護②　整容・洗面・爪切り
18	自立に向けた身じたくの介護③　麻痺のある方への更衣介助
19	自立に向けた食事の介護① 自立した食事とは
20	自立に向けた食事の介護②　Ⅰ視覚障害者への食事介助　Ⅱ麻痺のある方への食事介助
21	自立に向けた排泄の介護① 自立した排泄とは″
22	自立に向けた排泄の介護の基本(排泄方法の選択と方法)
23	自立に向けた排泄の介護の基本(排泄に関する様々な対応・介助)
24	休息・睡眠の介護Ⅰ ①休息・睡眠と
25	②(室内環境の調整・休息と睡眠環境を整える・ベッドメイキング)
26	③(特殊寝台と付属用具・ベッドメイキング) 期末試験範囲説明
27	福祉用具や、介護ロボット、ICTの意義や制度の理解
28	北九州市の介護現場における先進的な知識の習得
29	福祉用具・介護ロボット、ICTの種類と選び方①
30	福祉用具・介護ロボット、ICTの種類と選び方②

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術Ⅱ					担当者名	香坂　美穂				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

授業概要	生活支援技術Ⅰで基礎的な、自立に向けた身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄・休息・睡眠を利用者の状態に応じた介護の方法について、それぞれの一連の流れを理解し具体的な介助方法を学ぶ。また、人生の最終段階における介護について基礎的な知識・技術を学ぶ。
到達目標	・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。・介護実践の根拠について、説明できる能力を習得する。 ・家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解することができる。
成績評価	試験　期末テスト（介護技術演習50%　筆記試験40%） 授業への取り組み　10%（課題・レポート提出）
その他	（有）香坂　美穂　　介護老人保健施設にて介護福祉士として勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6・7　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	新介護福祉士養成講座12・14　発達と老化の理解・障害の理解	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	授業についてオリエンテーション 生活支援と介護過程
2	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた入浴・清潔保持とは
3	自立に向けた入浴・清潔保持の介護(ベッド上での洗髪)
4	自立に向けた入浴・清潔保持の介護(ベッド上での足浴・手浴)
5	自立に向けた食事の介護Ⅱ ①片麻痺の利用者への食事介助方法（トロミ剤の使用方法）
6	②全介助、認知症の利用者への食事介助方法
7	自立に向けた排泄の介護□ ①トイレ介助・ポートブルトイレ介助
8	自立に向けた排泄の介護□ ②リハビリパンツ・紙おむつ・布おむつ
9	自立に向けた排泄の介護□ ②排泄に関する福祉用具について（差し込み便器・尿器）
10	排泄の介護における多職種との連携
11	自立に向けた身じたくの介護Ⅱ□ ①口腔ケアについて
12	②口腔ケアの実際
13	休息・睡眠の介護Ⅱ ベットメイキング　寝たきりの利用者への対応①
14	休息・睡眠の介護Ⅱ ベットメイキング　寝たきりの利用者への対応②
15	生活支援技術Ⅰ・Ⅱで学習した介護技術まとめ、復習
16	中間テスト　解説

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術Ⅱ				担当者名	香坂　美穂					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

回数	授　業　計　画
17	応急手当の知識と技術 応急手当について
18	応急手当の実際
19	災害における生活支援 災害時における介護福祉職の役割
20	災害時における生活支援の実際
21	人生の最終段階における介護
22	人生の最終段階の意義と介護の役割
23	人生の最終段階における介護
24	人生の最終段階に介護における多職種との連携
25	生活支援技術 実技試験前演習　ロールプレイ
26	生活支援技術 実技試験前演習　ロールプレイ
27	生活支援技術国家試験対策①
28	生活支援技術国家試験対策②□ 期末試験について
29	生活支援技術 実技試験
30	生活支援技術 実技試験

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術Ⅲ					担当者名	石橋　真由美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うため知識・技術を習得する学習とする。また、障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。
到達目標	・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を修得する。 ・本人・家族との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。
成績評価	定期試験 90%（中間試験：30% 期末試験：60%） 授業への取り組み　10%（出席・授業態度・課題提出）
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護等　勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6・7・8 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	2026介護福祉士国家試験受験ワークブック上下		中央法規出版

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション：授業概要 利用者の状態・状況に応じた生活支援とは
2	障害や疾病とともに生活をする人を支える生活支援とは
3	さまざまな障害や疾病について①グループワーク
4	さまざまな障害や疾病について②グループワーク
5	視覚障害に応じた生活支援技術①
6	視覚障害に応じた生活支援技術②　よく出る国家試験問題解説
7	肢体不自由に応じた生活支援技術①
8	肢体不自由に応じた生活支援技術②　よく出る国家試験問題解説
9	聴覚・言語障害に応じた生活支援技術①
10	聴覚・言語障害に応じた生活支援技術①　よく出る国家試験問題解説
11	重複障害（盲ろう）に応じた生活支援技術①　DVD鑑賞（ヘレンケラー）
12	重複障害（盲ろう）に応じた生活支援技術②　DVD鑑賞（ヘレンケラー）レポート作成
13	【内部障害】 心臓機能障害に応じた生活支援技術①
14	【内部障害】 心臓機能障害に応じた生活支援技術②　よく出る国家試験問題解説
15	【内部障害】 呼吸器機能障害に応じた生活支援技術①
16	【内部障害】 呼吸器機能障害に応じた生活支援技術②　よく出る国家試験問題解説

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術Ⅲ					担当者名	石橋　真由美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

回数	授　業　計　画
17	中間試験　解説 【内部障害】腎臓機能障害に応じた生活支援技術①
18	【内部障害】 腎臓機能障害に応じた生活支援技術②　よく出る国家試験問題解説
19	【内部障害】 膀胱・直腸機能障害に応じた生活支援技術①
20	【内部障害】 膀胱・直腸機能障害に応じた生活支援技術②　よく出る国家試験問題解説
21	【内部障害】 小腸機能障害に応じた生活支援技術①
22	【内部障害】 小腸機能障害に応じた生活支援技術②　よく出る国家試験問題解説
23	知的障害に応じた生活支援技術
24	精神障害に応じた生活支援技術
25	【内部障害】 HIVによる免疫機能障害に応じた生活支援技術
26	【内部障害】 肝臓機能障害に応じた生活支援技術　よく出る国家試験問題解説
27	高次脳機能障害に応じた介護・【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS)に応じた介護 パーキンソン病に応じた介護
28	発達障害に応じた介護・【難病】悪性関節リュウマチに応じた介護 筋ジストロフィー症に応じた介護
29	生活支援技術Ⅲ　振り返り①　小テスト　自己採点　解説
30	生活支援技術Ⅲ　まとめ　国家試験に向けての対応策　期末試験について

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術（栄養・調理）					担当者名		静間　佳代子、石橋　真由美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

授業概要	人間が健康な生活を営むために必要な五大栄養素の働きを理解する。高齢者・障害者の身体的特徴を考慮しながら、介護福祉士が支援をするために必要な知識を養う。また、調理実習を通して調理の基礎を習得し、高齢者・障害者が食べやすい料理について学ぶ。
到達目標	介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を身につける。
成績評価	レポート提出30% 授業・実習態度10% 期末試験60%
その他	静間佳代子：実務経験あり、管理栄養士　石橋真由美：訪問介護・デイサービスで調理経験

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	2026年　図解でスッキリ介護福祉士テキスト	田村　正隆	ナツメ社

回数	授　業　計　画
1	一汁三菜を基本とした疾患に応じた献立、調理方法・調理の実際① 骨訴訟症
2	一汁三菜を基本とした疾患に応じた献立、調理方法・調理の実際② 骨訴訟症
3	食事の意義と食文化
4	食支援と多職種連携
5	高齢者の食事の特徴と注意点①
6	高齢者の食事の特徴と注意点②
7	高齢者の食事の特徴と注意点③
8	高齢者の食事の特徴と注意点④
9	栄養・栄養素①
10	栄養・栄養素②　栄養計算の方法
11	栄養・栄養素③
12	基本の献立構成　　食事バランスガイド
13	食品衛生　食中毒①
14	食品衛生　食中毒②
15	食品衛生　食中毒の対処法
16	食品衛生　調理器具の保管方法　賞味期限と消費期限

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術（栄養・調理）	担当者名	静間　佳代子、石橋　真由美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

回数	授　業　計　画
17	病態栄養①
18	病態栄養②「糖尿病食事療法のための食品交換表」と使い方
19	病態栄養③
20	病態栄養④
21	季節のイベント用献立、調理の実際① クリスマス・お正月
22	季節のイベント用献立、調理の実際② クリスマス・お正月
23	国家試験対策①　栄養調理に関する国家試験問題解説
24	国家試験対策②　栄養調理に関する国家試験問題解説　　期末試験範囲について
25	一汁三菜を基本とした疾患に応じた献立、調理方法・調理の実際③ 糖尿病・高血圧
26	一汁三菜を基本とした疾患に応じた献立、調理方法・調理の実際④ 糖尿病・高血圧
27	季節のイベント用献立、調理の実際③ 節分・恵方巻
28	季節のイベント用献立、調理の実際④ 節分・恵方巻
29	献立作成　調理 試験
30	献立作成　調理 試験

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術（家事の介護）	担当者名	柴田　仁子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		

授業概要	生活を円滑に快適にするためには、家事の知識や技術は重要である。毎日行われているさまざまな家事はその人らしい生活の継続を支援することになる。また、自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきことについて理解する。
到達目標	対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。
成績評価	中間試験（課題）20% 期末試験80%
その他	柴田仁子　障害者支援施設　訪問介護　グループホーム

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅰ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	家事の基本　大辞典	成美堂出版編集部	成美堂出版

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　生活支援と家事支援　ライフステージとライフスタイル
2	家事とは何か　家事の種類　家事をする意味　自立した家事の介護
3	防災の基本　災害時における生活支援
4	料理の基本　料理の介助　料理の意義　献立の考え方　季節・行事の食事
5	食材の切り方　調理法の種類　食材の保存法　衛生管理と食中毒の予防
6	洗濯の基本　洗濯の方法　洗濯機と洗剤の種類と使い方　洗濯物の干し方　衣服の洗濯表示
7	衣服の収納・片付けの基本　衣服のたたみ方　季節に応じた衣服管理（衣替え）　中間試験
8	掃除の基本　掃除・ゴミ捨ての介護　場所別の掃除の仕方　洗剤の種類
9	季節の行事の介護　サンタクロースの飾りの製作
10	衣服の補習の介護　縫い方の種類　ボタン付け　裾上げ
11	四季の行事に応じた家事支援　歳末と正月
12	寝具・衣服・住宅設備の衛生管理一在宅と施設の違い
13	買い物の介護　買い物の方法と支援　家庭経営家計の管理
14	国家試験対策　家事の介護のまとめ
15	生活を彩る季節の行事の介護

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	生活支援技術（生活支援と文化）					担当者名		柴田　仁子、北田　清美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	要介護者の生活を支える基本的な考え方や支援のあり方を理解し、その人に寄り添い「生活の質」を高める支援方法の知識を得る。
到達目標	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から 本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行う知識・技術を習得する。
成績評価	柴田：レポート提出、製作実技（作品提出）　70% 北田：レポート提出　30%″
その他	柴田仁子　障害者支援施設　訪問介護　グループホーム、北田清美　介護老人福祉施設

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	生活支援技術Ⅰ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	はじめての行事絵本	長久保浩子	インターナショナル

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　日本の文化とは
2	日本の四季　生活の質を高める生活支援
3	年中行事の意味や由来　行事を楽しむ
4	四季を楽しむレクリエーション支援
5	歌を楽しむ
6	和紙を楽しむ
7	漢字を楽しむ
8	ゲームを楽しむ
9	製作、壁面を彩る季節の飾り　春夏秋冬①
10	製作、壁面を彩る季節の飾り　春夏秋冬②
11	授業概要説明　　自己紹介とコミュニケーションについて①
12	コミュニケーション方法について
13	生活の質を高めるためのフットケアの意義について①
14	生活の質を高めるためのフットケアの意義について演習①
15	生活の質を高めるためのフットケアの意義について演習②

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護過程Ⅰ①					担当者名	住野　まり子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						

授業概要	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。
到達目標	１．介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できる。 ２．個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。
成績評価	定期試験（中間+期末）70%、課題提出30%
その他	有り：介護老人福祉施設にて介護支援相談専門員として従事

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座９「介護過程」中央法規（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、介護過程とは
2	介護過程の全体像
3	介護過程における事例検討・事例研究の必要性
4	介護過程の展開
5	アセスメント（情報収集）①
6	アセスメント（情報収集）②
7	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）①
8	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）②
9	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）③
10	介護計画の立案①
11	介護計画の立案②
12	介護計画の立案③
13	介護の実施
14	評価
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護過程Ⅰ②					担当者名	住野　まり子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。
到達目標	１．介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できる。 ２．個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。
成績評価	定期試験（中間+期末）70%、課題提出30%
その他	有り：介護老人福祉施設にて介護支援相談専門員として従事

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座９「介護過程」中央法規（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	振り返り、介護過程とケアマネジメント
2	ケアマネジメントと個別援助計画の関係性
3	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
4	利用者の生活と介護過程の展開①
5	利用者の生活と介護過程の展開②
6	利用者の生活と介護過程の展開③
7	利用者の生活と介護過程の展開④
8	介護過程の実践的展開①　事例１
9	介護過程の実践的展開②
10	介護過程の実践的展開③
11	介護過程の実践的展開④　事例２
12	介護過程の実践的展開⑤
13	介護過程の実践的展開⑥
14	介護過程の実践的展開⑦
15	まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護過程Ⅱ					担当者名	鄭　瑞河					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				

授業概要	介護過程の意義・目的および介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎知識理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術など他の科目との連携を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。
到達目標	本人の望む生活の実践に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得できる。
成績評価	記録物（介護過程の展開：授業中の事例）60% 課題提出30% 授業態度10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座９「介護過程」中央法規（第2版）	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　介護過程Ⅰの振り返り　介護過程の理解
2	介護過程の展開の理解　事例に沿った介護過程の展開について
3	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：アセスメントシート作成
4	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：アセスメントシート作成
5	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：アセスメントシート作成
6	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：アセスメントシート作成
7	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：個別援助計画　長期目標と短期目標の設定
8	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：個別援助計画
9	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：個別援助計画
10	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：個別援助計画　実施　評価・考察
11	事例（１）に沿った介護過程の展開　個人ワーク：個別援助計画　実施　評価・考察
12	事例（１）に沿った介護過程の展開　実習中の介護過程作成のポイント（情報収集）
13	事例（１）に沿った介護過程の展開　実習中の介護過程作成のポイント（アセスメント作成）
14	事例（１）に沿った介護過程の展開　実習中の介護過程作成のポイント（情報の解釈・統合化）
15	事例（１）に沿った介護過程の展開　実習中の介護過程作成のポイント（評価・考察）まとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護過程Ⅲ	担当者名	石橋　真由美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

授業概要	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。また、国家試験に向けて、総合的な基礎知識・問題に対する読解力を習得する。
到達目標	・各領域で学んだ知識・技術・思考を統合し、根拠に基づいたアセスメントができる。 ・障害やその症状を理解し、個別性に合わせた介護計画の立案ができる。
成績評価	定期試験50%、介護過程の展開作成物　50%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護等　勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座９「介護過程」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　介護過程Ⅱの振り返り
2	介護過程の展開　事例報告準備①
3	介護過程の展開　事例報告準備②
4	介護過程の展開　事例報告準備③
5	介護過程の展開　事例報告準備④
6	介護過程の展開　事例報告準備⑤
7	介護過程の展開　事例報告準備⑥
8	介護過程の展開　事例報告準備⑦
9	介護過程の展開　事例報告準備⑧
10	介護過程の展開　事例報告準備⑨
11	介護過程の展開　事例報告準備⑩
12	介護過程の展開　事例報告準備⑪
13	介護過程の展開　事例報告準備⑫
14	介護過程の展開　事例報告準備⑬
15	介護過程の展開　事例報告準備⑭
16	介護過程の展開　事例報告準備⑮

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護過程Ⅲ	担当者名	石橋　真由美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		4			授業時間数				60		

回数	授　業　計　画
17	介護過程の展開　事例報告準備⑯
18	全国模擬試験の解説①
19	全国模擬試験の解説②
20	全国模擬試験の解説③
21	国家試験対策①
22	国家試験対策②
23	国家試験対策③
24	国家試験対策④
25	国家試験対策⑤
26	介護過程の展開　事例報告準備⑰
27	介護過程の展開　事例報告準備⑱
28	介護過程の展開　事例報告準備⑲
29	介護過程の展開　事例報告準備⑳
30	介護過程の展開　事例報告準備㉑

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護総合演習Ⅰ	担当者名	鄭　瑞河

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として意思や態度の形成、自己教育力等を養う統合的な学習とする。実習Ⅰにおいては、実習する施設や事業所について事前に理解を深めること、多様な利用者の暮らしの場を理解し、利用者やその家族とのコミュニケーションや多職種協働の実践、介護技術の確認を目的とする。
到達目標	１．事前に実習先について理解を深めることができる。 ２．実習に向けて目標の明確化、行動の計画、主体的な体験、評価のための記録等を具体的に学ぶ。 ３．介護福祉士として介護観を形成することの意義を理解する。
成績評価	施設実習評価70%、授業態度20%、提出物10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、第1章ー介護総合演習で何を学ぶか
2	第2章ー介護実習で何を学ぶか
3	介護実習前の学習内容と方法
4	介護実習中の学習内容と方法
5	介護実習後の学習内容と方法
6	実習先の特徴、実習先での学び　DS・DC・小多機
7	実習先の特徴、実習先での学び　GH
8	実習先の特徴、実習先での学び　障害
9	実習前指導（実習目標）
10	実習前指導（実習記録の指導）
11	実習前指導（実習記録の指導）
12	実習前指導（実習の心得、実習書類の確認）
13	実習前指導（事前確認事項／質問、最終確認等）
14	事前オリエンテーション①
15	事前オリエンテーション②
16	

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護総合演習Ⅰ	担当者名	鄭　瑞河

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として意思や態度の形成、自己教育力等を養う統合的な学習とする。実習Ⅰにおいては、実習する施設や事業所について事前に理解を深めること、多様な利用者の暮らしの場を理解し、利用者やその家族とのコミュニケーションや多職種協働の実践、介護技術の確認を目的とする。
到達目標	１．事前に実習先について理解を深めることができる。 ２．実習に向けて目標の明確化、行動の計画、主体的な体験、評価のための記録等を具体的に学ぶ。 ３．介護福祉士として介護観を形成することの意義を理解する。
成績評価	施設実習評価70%、授業態度20%、提出物10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、振り返り
2	介護実習準備
3	実習モデル③地域における介護実習
4	実習モデル③地域における介護実習
5	介護実習準備　指導者会議の準備
6	介護実習準備
7	介護実習準備
8	介護実習準備
9	介護実習準備
10	介護実習準備
11	介護実習後の学習
12	介護実習後の学習
13	介護実習準備
14	介護実習準備
15	介護実習後の学習
16	

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護総合演習Ⅱ	担当者名	石橋　真由美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

授業概要	実習Ⅱでは個別ケアを理解するため、介護過程に基づいた専門的・計画的なものであることを理解し、体験することができる。介護過程の展開から、専門的で計画的な介護サービスを提供する能力を身につけることができる。さらに、実習を振り返り、介護の意識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。
到達目標	・様々な生活の場において，個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，介護技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じて，チームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。
成績評価	施設実習評価50%、授業態度20%、提出物30%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護等　勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	実習の手引き(2026)		

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション、実習Ⅰ振り返り
2	実習前指導①　実習Ⅱについて
3	実習前指導②　実習に向けた姿勢等・計画・目標作成
4	実習前指導③　実習モデルに対する介護過程展開①　介護老人福祉施設
5	実習前指導④　実習モデルに対する介護過程展開②㊀護老人福祉施設
6	実習前指導⑤　実習モデルに対する介護過程展開③㊀護老人福祉施設
7	実習前指導⑥　実習モデルに対する介護過程展開④㊀護老人福祉施設
8	実習前指導⑦　実習モデルに対する介護過程展開⑤㊀護老人保健施設
9	実習前指導⑧　実習モデルに対する介護過程展開⑥　介護老人保健施設
10	実習前指導⑨　実習モデルに対する介護過程展開⑦　介護老人保健施設
11	実習前指導⑩　実習モデルに対する介護過程展開⑧　介護老人保健施設
12	実習準備①　施設概要作成　実習前オリエンテーション準備
13	実習準備②　実習目標作成
14	実習準備③　実習日誌、介護過程作成用シート記入方法再確認
15	実習準備④　実習への心得
16	実習Ⅱ　振り返り

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護総合演習Ⅱ	担当者名	石橋　真由美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

回数	授　業　計　画
17	介護過程モデル利用者について介護過程の見直し①
18	介護過程モデル利用者について介護過程の見直し②
19	介護過程モデル利用者について介護過程の見直し③
20	介護過程モデル利用者について介護過程の見直し④
21	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成①
22	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成②
23	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成③
24	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成④
25	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成⑤
26	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成⑥
27	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成⑦
28	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成⑧
29	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成⑨
30	実習報告準備　介護過程モデル利用者について報告書作成・提出⑩

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護実習					担当者名		鄭　瑞河			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				15	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						120	160				

授業概要	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。
到達目標	・対象者の生活と地域との関りや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び、理解することができる。
成績評価	実習Ⅰ段階　施設実習評価　90% 実習への取り組み　10%
その他	鄭瑞河（グループホームにおいて介護福祉士として勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書			

回数	授　業　計　画
1	実習Ⅰ段階　Ⅰ-A　8月17日～9月4日（15日間）デイサービス・デイケアサービス・小規模多機能居宅介護 看護小規模多機能型居宅介護
2	Ⅰ-B　11月30日～12月11日（10日間）グループホーム
3	Ⅰ-C　2027年 2月1日～2月12日（10日間）障害者支援施設
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	介護実習					担当者名	石橋　真由美					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				15	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								200			

授業概要	2年次に実施する介護実習Ⅱでは、個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける学習とする。
到達目標	・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学び理解することができる。
成績評価	施設の評価100%
その他	（有）石橋真由美：長期療養型医療施設・デイサービス・訪問介護等　勤務

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版
参考図書	実習の手引き(2025)		

回数	授　業　計　画
1	実習Ⅱ介護老人福祉施設・介護老人保健施設 令和8年9月７日～10月9日　25日間″
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	障害の理解					担当者名	杉山　恵子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			

授業概要	介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上を前提として、障害のある人への身体機能や心理を理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習する。障害の概念や基本理念を踏まえ、障害の医学的・心理的側面の基本的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、生活を支えるための社会資源、関係機関との連携、家族への支援について学びを深める。
到達目標	①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害への概念や特徴に応じた制度の基本的な知識、また医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。 ②障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し必要な支援ができる。
成績評価	定期試験80% 課題提出10% 授業態度10%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　受験ワークブック2026下	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　1年次の復習
2	障害の概念と障害者福祉の基本理念
3	障害者福祉に関する制度・障害者福祉制度と介護保険制度
4	障害のある人の心理
5	視覚障害・聴覚障害・重複障害
6	内部障害（心機能障害/呼吸機能障害/腎機能障害）
7	中間試験　解説
8	内部障害（膀胱・直腸機能障害/小腸機能障害）
9	内部障害（免疫機能障害/肝機能障害）重症心身障害
10	知的障害/高次脳機能障害
11	発達障害/難病
12	地域のサポート体制/家族への支援
13	まとめ　国家試験対策①
14	まとめ　国家試験対策②
15	まとめ　国家試験対策③
16	

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	障害の理解	担当者名	杉山　恵子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上を前提として、障害のある人の身体的機能や心理を理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習する。障害の概念や基本理念を踏まえ、障害の医学的・心理的側面の基本的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、生活を支えるための社会資源、関係機関との連携、家族への支援について学びを深める。
到達目標	①障害のある人の生活を支援する観点から、障害の概念、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解することができる。 ②医学的。心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができる。 ③障害のある人のライフステージや障害の段階に応じた支援のポイントを理解することができる。
成績評価	定期試験80% 課題提出10% 授業態度10%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新介護福祉養成講座14「障害の理解」第3班	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　受験ワークブック2026下	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	オリエンテーション　障害の概念と障害者福祉の基本理念
2	障害者福祉に関する制度/障害者福祉制度と介護保険制度
3	障害のある人の心理/肢体不自由
4	視覚障害/聴覚・言語/重複障害
5	内部障害（心機能障害/呼吸機能障害/）
6	内部障害（腎臓機能障害/膀胱・直腸機能障害）
7	中間試験　解説
8	内部障害（/小腸機能障害免疫機能障害）
9	内部障害（肝機能障害）
10	重症心身障害/重症心身障害児
11	知的障害/精神障害
12	高次脳機能障害/発達障害/難病
13	連携と協働
14	家族への支援
15	全体の　まとめ
16	

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	こころとからだのしくみⅠ					担当者名		香坂　美穂			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

授業概要	人間の心理や人体の構造・機能を理解するため基礎的な知識や発生メカニズムを学ぶことにより「予防の観点」を身に付け、介護福祉士として利用者と関わる際に、健康を意識した支援を実践する根拠を学ぶ。
到達目標	介護を必要とする人の生活支援をおこなうため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解ができる。
成績評価	前期中間・まとめ試験（課題含）　20% 後期中間・期末試験（課題含）　80%
その他	実務経験の有無：有（介護老人保健施設、施設サービス管理責任者）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座11「こことろからだのしくみ」	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2026	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　健康とは何か
2	健康とは何か
3	人間の欲求とは　マズローの欲求階層説
4	人間の欲求とは　マズローの欲求階層説
5	確認テスト こころのしくみ　脳のしくみ
6	学習・記憶・思考のしくみ
7	学習・記憶・思考のしくみ
8	確認テスト 適応のしくみ　防衛機制
9	適応のしくみ　防衛機制
10	ライチャードによる高齢者の人格の分類　確認テスト
11	中間試験　解説
12	からだのしくみ　身体各部の名称
13	内臓の名称（前面・後面）
14	全身の骨格・骨格筋
15	前期のまとめ　試験
16	身体各部の名称　内臓の名称（前面・後面）確認試験 前期の振り返り

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	こころとからだのしくみⅠ				担当者名	香坂　美穂					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

回数	授　業　計　画
17	感覚器　呼吸器
18	感覚器　呼吸器
19	泌尿器　循環器
20	骨　筋肉
21	骨　筋肉
22	生殖器　内分泌
23	生命を維持するしくみ
24	薬の知識
25	中間試験　解説　全体の振り返り
26	全体のまとめ（確認テスト）
27	国家試験対策（過去問・模擬問題解説）こころとからだのしくみⅠ履修分
28	国家試験対策（過去問・模擬問題解説）こころとからだのしくみⅠ履修分
29	国家試験対策（過去問・模擬問題解説）こころとからだのしくみⅠ履修分
30	期末試験対策

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	こころとからだのしくみⅡ					担当者名	宮本　明美					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

授業概要	人体のしくみを理解したうえで、機能の低下がどのように生活行動に影響するかを考えることができ、利用者の残存機能・潜在機能に注目してどのような介護方法が適切か自立支援の観点より考えることが出来る。
到達目標	こころとからだのしくみⅠで学習した内容をふまえて、身じたくから人生の最終段階のケアなどの生活を支える介護実践との関係を理解できる。
成績評価	中間、期末試験80% 課題提出、確認テスト、授業態度20%
その他	看護師、看護・介護専任教員　　実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座11「こころとからだのしくみ」　12　「発達と老化の理解」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	2025版　図解でスッキリ！介護福祉士テキスト	秋草学園福祉教育専門学校介護福祉士テキスト製作委員会	ナツメ社

回数	授　業　計　画
1	こころとからだのしくみⅠの振り返り　こころとからだのしくみⅡガイダンス
2	移動のしくみ
3	心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4	変化の気づきと対応
5	確認テスト 身じたくのしくみ
6	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
7	変化の気づきと対応
8	確認テスト 食事のしくみ
9	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
10	変化の気づきと対応
11	確認テスト 入浴・清潔保持のしくみ
12	心身の機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響
13	変化の気づきと対応
14	確認テスト 国家試験問題　解説　まとめ
15	移動のしくみから入浴・清潔保持のしくみまでのまとめ　　中間試験
16	排泄のしくみ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	こころとからだのしくみⅡ					担当者名		宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30	30		

回数	授　業　計　画
17	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
18	変化の気づきと対応
19	確認テスト 休息・睡眠のしくみ
20	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
21	変化の気づきと対応
22	確認テスト 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方、「死生観」　死に対するこころの理解
23	排泄のしくみから終末期、来徳治、死後の体の理解までのまとめ　テスト
24	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）①
25	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）②
26	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）③
27	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）④
28	国家試験対策（過去問・模擬問題・解説）⑤
29	全体のまとめ　期末試験対策
30	全体のまとめ　期末試験対策

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	発達と老化の理解					担当者名	宮本　明美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

授業概要	成長、発達の観点から老化を理解し、老化によって起こる心理や身体的機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得する。 高齢者に多い疾病や老化に伴って生じる機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し生活支援技術の根拠となる知識を習得する。
到達目標	介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達、ライスサイクル各期における身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など基礎的知識が理解できる。 発達の観点から老化を理解し身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など基礎的な知識が理解できる。
成績評価	中間試験（課題提出含）20% 期末試験　80%
その他	看護師、看護・介護専任教員　実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新介護福祉養成講座12「発達と老化の理解」 13「こことろからだのしくみ」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2026	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　発達と老化の理解とは 人間の成長と発達の基礎知識（発達とは、成長・発達に影響する因子）
2	自分の発達を考える 過去・現在・未来（80歳）の自分を書いてみよう　演習・発表
3	人間の発達段階と発達課題
4	身体的・心理的・社会的機能の発達と成長 老年期の特徴と発達課題　老化に伴うこころとからだの変化と生活
5	高齢者の疾患・症状の特徴（閉じこもり・廃用症候群・老年症候群）
6	高齢者の疾患・症状の特徴：筋骨系（骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症）と対策
7	高齢者の疾患・症状の特徴：筋骨系（骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症）と対策
8	確認テスト 高齢者の疾患・症状の特徴：脳神経系（パーキンソン症状・脳血管疾患・脳出血・脳梗塞）と対策
9	高齢者の疾患・症状の特徴：脳神経系（パーキンソン症状・脳血管疾患・脳出血・脳梗塞）と対策
10	確認テスト 高齢者の疾患・症状の特徴：皮膚感覚器系（白内障・難聴・脱水・ドライスキン）と対策
11	高齢者の疾患・症状の特徴：皮膚感覚器系（白内障・難聴・脱水・ドライスキン）と対策
12	確認テスト 高齢者の疾患・症状の特徴：循環器系（高血圧によって起こる疾患）と対策
13	高齢者の疾患・症状の特徴：循環器系（高血圧によって起こる疾患）と対策
14	高齢者の疾患・症状の特徴：循環器系（動脈硬化・心不全・糖尿病）と対策
15	中間試験　解説　　前半のまとめ
16	高齢者の疾患・症状の特徴：呼吸器系（肺炎・COPD・インフルエンザ・コロナウイルス）とその対策

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	発達と老化の理解	担当者名	宮本　明美

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	4				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

回数	授　業　計　画
17	高齢者の疾患・症状の特徴：呼吸器系（肺炎・COPD・インフルエンザ・コロナウイルス）とその対策
18	確認テスト 高齢者の疾患・症状の特徴：腎泌尿器系（前立腺肥大・尿路感染症・腎不全）と対策
19	高齢者の疾患・症状の特徴：腎泌尿器系（前立腺肥大・尿路感染症・腎不全）と対策
20	高齢者の疾患・症状の特徴：内分泌系（糖尿病と合併症）
21	高齢者の疾患・症状の特徴：内分泌系（糖尿病と合併症）
22	確認テスト 高齢者の疾患・症状の特徴：歯・口腔系（齲歯・歯周病・ドライマウス）とその対策
23	高齢者の疾患・症状の特徴：感染症・精神疾患
24	高齢者の疾患・症状の特徴：感染症・精神疾患・その他の疾患
25	国家試験対策（過去問・予想・模擬問題、解説）①
26	国家試験対策（過去問・予想・模擬問題、解説）②
27	国家試験対策（過去問・予想・模擬問題、解説）③
28	国家試験対策（過去問・予想・模擬問題、解説）④
29	国家試験対策（過去問・予想・模擬問題、解説）⑤
30	総括　期末試験対策

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	認知症の理解Ⅰ					担当者名	江藤　尚隆					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					

授業概要	認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境など正しく理解し、認知症の方に対する適切な全人的ケアを提供できる知識を学習する。
到達目標	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解できる。
成績評価	中間試験（課題提出・確認テスト含）20% 期末試験80%
その他	江藤：介護老人悲観施設勤務、統括部長

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座13「認知症の理解」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2025	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　認知症とは何か　どのような病気か
2	脳の構造・機能
3	うつとせん妄の違い（認知症の人の心理）
4	中核症状の理解
5	BPSDの理解
6	確認テスト 認知症に原因疾患（アルツハイマー型認知症、血管性認知症）と症状・生活障害①
7	認知症に原因疾患（レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）と症状・生活障害②
8	認知症に原因疾患（正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫や脳腫瘍、若年性認知症）と症状・生活障害③
9	確認テスト 認知症の各検査　診断と重症度
10	認知症の治療着・予防法・取り巻く状況
11	中間試験、解説 認知症のケアの理念と、当事者の視点から見えるもの
12	パーソン・センタード・ケアについて
13	国家試験対策（過去問・模擬問題）解説①　　既習の部分より抜粋
14	国家試験対策（過去問・模擬問題）解説②　　既習の部分より抜粋
15	期末H試験対策、全体のまとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	認知症の理解Ⅱ					担当者名		江藤　尚隆、宮本　明美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境など正しく理解し、認知症の方に対する適切な全人的ケアが提供できる知識を学習する。
到達目標	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎知識を習得するとともに、認知症の人を中心にとらえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについてを理解できる。
成績評価	中間試験20%（課題提出含） 期末試験80%
その他	江藤：介護老人悲観施設勤務、統括部長　　宮本：看護・介護専任教員　キャラバンメイト

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉養成講座13「認知症の理解」	介護福祉養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士国家試験　書いて覚える合格ドリル2026	介護福祉士国家試験合格ドリル編集委員会	中央法規

回数	授　業　計　画
1	認知症とは、中核症状、ＢＰＳＤの振り返り
2	認知症の原因疾患と症状の振り返り
3	認知症の人の特性の理解・センター方式
4	健康状態のアセスメント
5	認知症の人のコミュニケーション
6	認知症の人へのケアの実態①
7	認知症の人へのケアの実態②
8	中間試験・解説　　認知症の人の終末期医療と介護
9	家族への支援
10	認知症サポーター養成講座（※時期により前後することがあります）
11	介護福祉職への支援
12	認知症の人の地域生活支援
13	多職種連携と協働 まとめ
14	国家試験対応(過去問・模擬問題）、解説
15	全体のまとめ、期末試験対策

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	医療的ケアⅠ	担当者名	杉山　恵子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				

授業概要	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識と技術を習得する。 医療的ケア実施の基盤として、医療的ケアがどのようなものかまた、介護福祉士が喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景などを医療的ケアを安全に実施るための基礎知識について学ぶ。
到達目標	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術が理解できる。
成績評価	定期試験80% 演習・課題10% 授業態度10%
その他	実務経験の有無：有（総合病院勤務）医療的ケア教員

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座15「医療的ケア」第3版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規
参考図書	図解でスッキリ！介護福祉士テキスト	秋草学園福祉教育専門学校	ナツメ社

回数	授　業　計　画
1	医療的ケアとは
2	医行為について/喀痰吸引制度
3	医療的ケアと喀痰吸引等の背景/その他の制度
4	清潔保持と感染予防　「感染予防」
5	清潔保持と感染予防　「スタンダードプリコーション」
6	清潔保持と感染予防　「スタンダードプリコーション」演習
7	介護福祉職の感染予防/療養環境の清潔・消毒法/消毒と滅菌
8	中間試験　解説
9	健康状態の把握　「バイタルサイン測定/急変状態について」
10	健康状態の把握　「バイタルサイン測定」演習
11	安全な療養生活　「喀痰吸引や経管栄養の安全な実施」
12	安全な療養生活　「リスクマネジメント」
13	安全な療養生活　「救急蘇生法」
14	安全な療養生活　「救急蘇生法」演習
15	全体のまとめ

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	医療的ケアⅡ　演習					担当者名		宮本　明美、杉山　恵子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

授業概要	職業倫理、医療的ケアを必要とする利用者やその家族の気持ち、医療従事者との連携の大切さと安全性、制度など医療的ケアの必要な知識、価値観、技術を習得する。
到達目標	医療的ケアを安全に、適切に実施するために必要な知識・技術が理解できる。 喀痰吸引（基礎的知識・手順）経管栄養（基礎的S知識・手順）について学び実施できる。
成績評価	技術試験（演習態度含）60% 期末試験40%
その他	看護師、看護・介護専任教員　　医療的ケア教員　実務経験の有無：有（総合病院勤務）

使用教材	書　籍　名	著　者　名	出版社名
教科書	最新　介護福祉士養成講座15「医療的ケア」	介護福祉養成講座委員会	中央法規
参考図書	介護福祉士実務者研修テキストDVD	白井孝子他	中央法規

回数	授　業　計　画
1	ガイダンス　医療的ケアとは、実施基盤についてのオリエンテーション　宣誓書記入
2	実施基盤についてのオリエンテーション　喀痰吸引実施手順解説（テキスト、DVD）
3	医行為　喀痰吸引制度　背景　その他の制度
4	医行為　喀痰吸引制度　背景　その他の制度
5	安全な療養生活　生活保持と感染予防　健康状態の把握
6	安全な療養生活　生活保持と感染予防　健康状態の把握
7	実施に関してのオリエンテーション
8	喀痰吸引デモンストレーション・実施
9	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
10	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
11	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
12	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
13	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
14	喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ）実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
15	経管栄養実施手順解説（テキスト、DVD） デモンストレーション・実施
16	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）

九州医療スポーツ専門学校
令和 8年度　介護福祉学科　　昼間Ⅰ部

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野

授業科目名	医療的ケアⅡ　演習	担当者名	宮本　明美、杉山　恵子

授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

回数	授　業　計　画
17	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
18	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
19	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
20	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
21	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
22	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養実施（演習）、課題・講義 技術チェック（※5回以上）
23	各技術の最終確認、技術試験　課題・講義
24	各技術の最終確認、技術試験　課題・講義
25	各技術の最終確認、技術試験　課題・講義
26	各技術の最終確認、技術試験　課題・講義
27	各技術の最終確認、技術試験　課題・講義
28	各技術の最終確認、技術試験　課題・講義
29	全体のまとめ　　期末・国家試験対策
30	期末・国家試験対策